

アンリツ  
サステナビリティレポート 2022

Anritsu Sustainability Report

**Anritsu**  
Advancing beyond



# 共に持続可能な未来づくりを

2021年4月、アンリツは2030年に向けて、新たな経営ビジョン、経営方針を掲げました。これに合わせ、サステナビリティ方針も改定しました。これらの理念、ビジョン、方針を基に社員一人ひとりが行動し、ステークホルダーの皆さまと共に、持続可能な未来づくりに挑んでいきます。



## サステナビリティ方針

私たちは「誠と和と意欲」をもってグローバル社会の持続可能な未来づくりに貢献することを通じて、企業価値の向上を目指します。

- 1 長期ビジョンのもと事業活動を通じて、安全・安心で豊かなグローバル社会の発展に貢献します。
- 2 気候変動などの環境問題へ積極的に取り組み、人と地球にやさしい未来づくりに貢献します。
- 3 すべての人の人権を尊重し、多様な人財とともに個々人が成長し、健康で働きがいのある職場づくりに努めます。
- 4 高い倫理観と強い責任感をもって公正で誠実な活動を行い、経営の透明性を維持して社会の信頼と期待に応える企業となります。
- 5 ステークホルダーとのコミュニケーションを重視し、協力関係を育み、社会課題の解決に果敢に挑んでいきます。

改定 2021年4月

## アンリツグループ企業行動憲章

WEB アンリツグループ企業行動憲章

## アンリツグループ行動規範

WEB アンリツグループ行動規範

WEB ESG関連の方針・ガイドライン一覧

## CONTENTS

アンリツはこんな会社です。 開発/製造/技術・サービス拠点をグローバルに展開

## アンリツはこんな会社です。

### 生まれは明治時代です。

アンリツは1895年(明治28年)に創業しました。当時の社名は石杉社です。紆余曲折を経て、1931年に安中電機製作所と共立電機が合併し、安立電気株式会社が誕生しました。その後1985年に現在のアンリツ株式会社となりました。

創業以来、アンリツは情報通信機器のパイオニアとして、コミュニケーションの進化・発展に関わってきました。その後、通信用測定器や食品の品質保証機器へと事業の幅を広げ、現在は、通信計測・PQA・環境計測・センシング&デバイスの4つの事業を展開するとともに、ESGへの取り組みも積極的に行い、社会課題解決に貢献しています。

WEB 会社概要

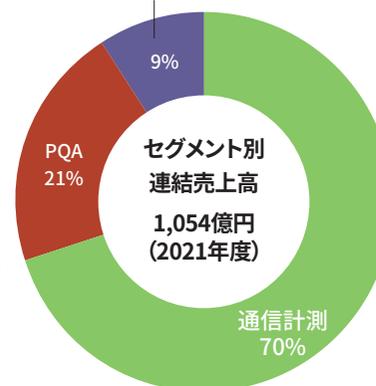
### 通信計測事業

5G/IoT社会の実現を支える通信計測ソリューションの提供を通して、世界各国のお客さまとともに、便利で快適な社会の実現に貢献しています。

### PQA事業

食品や医薬品の安全と安心の実現に向け、お客さまの製造現場の多種多様な悩みや問題を解決するソリューションを展開しています。

その他(環境計測・センシング&デバイスなど)



### 環境計測事業

社会インフラの維持、脱炭素社会の実現を支える環境計測ソリューションを提供し、持続可能な社会の実現に貢献しています。

### センシング&デバイス事業

最先端のデバイス技術、センシング技術を基盤にお客さまの要望に応じた高品質なカスタム製品を世界中に供給しています。

## ● 社会課題解決への貢献の歴史

### 通信の実用化

- 1908：後の公衆電話機となる自動電話機を量産
- 1914：世界に先駆けて無線電話機を実用化
- 1924：国産初のラジオ放送聴取用受信機製作
- 1933：国産初のテレビジョン放送機製作



### 通信インフラの整備、食品の大量生産

- 1950：TV放送向け各種測定器の開発・製造
- 1956：公衆電話機の開発・製造
- 1964：食品用重量選別機の開発・製造



### 光・デジタル通信の高速化、食品の安全・安心

- 1981：業界初の光パルス試験器の開発・製造  
食品用金属検出機の開発・製造
- 2000：高速データ通信用測定器の開発・製造  
食品用X線異物検出機の開発・製造



### モバイル通信の進化・発展

- 2001：業界初の3G用測定器の開発・製造
- 2010：業界初の4G用測定器の開発・製造
- 2018：業界初の5G用測定器の開発・製造



## ● ESGの取り組みの歴史

- 1962：排水処理施設設置
- 1968：東京証券取引所市場第1部に上場
- 1994：製品アセスメント委員会発足
- 1995：アンリツグループ行動規範制定
- 1997：環境方針制定
- 1998：ISO14001認証取得(厚木事業所)
- 1999：アンリツグリーン調達ガイドライン・製品開発用-制定
- 2000：リサイクルセンター設立  
環境配慮型製品制度制定  
環境報告書発行開始  
執行役員制度導入

- 2001：IR部門設置
- 2004：CSR推進部門設置
- 2005：社外取締役1名招聘(10年、11年、21年増員)  
CSR報告書発行  
アンリツグループ企業行動憲章制定
- 2006：国連グローバル・コンパクト賛同
- 2010：アンリツグループCSR調達ガイドライン制定
- 2013：郡山第二工場建設・太陽光発電開始
- 2015：監査等委員会設置会社に移行  
グローバル本社棟建設・太陽光発電開始

- 2018：サステナビリティ方針制定(2021年改定)  
サステナビリティ推進部門設置  
CSR報告書からサステナビリティレポートへ
- 2019：CO<sub>2</sub>排出量削減計画でSBT認証取得
- 2020：再エネ自家発電に取り組む  
「Anritsu Climate Change Action PGRE 30<sup>\*</sup>」開始  
Anritsu Company(米国)で太陽光発電開始
- 2021：株式会社ハビスマ設立(特例子会社認定取得)

※「PGRE」は、Private Generation of Renewable Energy(再エネ自家発電)の略であり、「30」は自家発電比率目標値である30%程度とその達成時期の2030年頃を意味します。

食の安全・安心確保

これが私たちの夢です。サステナビリティ経営の両輪である「事業を通じて解決する社会課題」と「社会の要請に応える課題(ESG)」への取り組みを通じて、安全・安心で豊かなグローバル社会の発展を目指しています。

食品ロスの低減

自然災害の防災・減災

カーボンニュートラルの実現

労働力不足の解消

アンリツはこんな会社です。 **開発/製造/技術・サービス拠点をグローバルに展開**

## 開発/製造/技術・サービス拠点をグローバルに展開

アンリツの開発/製造/技術・サービス拠点は世界に広がっています。  
主な拠点は以下の通りです。



### 米州

#### Anritsu Company (U.S.A.)

- 所在地：カリフォルニア州モーガンヒル
- 通信計測(開発/製造)

#### Anritsu Infvis Inc. (U.S.A.)

- 所在地：イリノイ州シカゴ
- PQA(開発/製造/技術・サービス)

#### Azimuth Systems, Inc. (U.S.A.)

- 所在地：マサチューセッツ州アクトン
- 通信計測(開発/製造)



Anritsu Company

### EMEA

#### Anritsu Ltd. (U.K.)

- 所在地：ベットフォードシャールートン
- 通信計測(開発)

#### Anritsu EMEA Ltd. (U.K.)

- 所在地：ベットフォードシャールートン
- 通信計測(開発/技術・サービス)

#### Anritsu Solutions S.r.l. (Italy)

- 所在地：ローマ
- 通信計測(開発/技術・サービス)



Anritsu Ltd./  
Anritsu EMEA Ltd.

#### Anritsu Solutions SK, s.r.o. (Slovakia)

- 所在地：ブラチスラバ
- 通信計測(開発)

#### Anritsu A/S (Denmark)

- 所在地：コペンハーゲン
- 通信計測(開発/技術・サービス)

#### Anritsu Solutions S.R.L. (Romania)

- 所在地：ブカレスト
- 通信計測(開発/技術・サービス)



Anritsu Electronics (Shanghai)  
Co., Ltd.

### アジア

#### Anritsu India Private Limited (India)

- 所在地：バンガロール
- 通信計測(開発/技術・サービス)

#### Anritsu Philippines, Inc. (Philippines)

- 所在地：ケソン
- 通信計測(開発)

#### Anritsu Infvis (Thailand) Co., LTD. (Thailand)

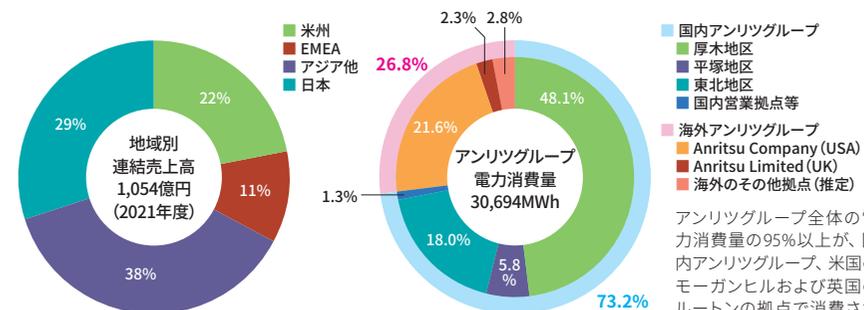
- 所在地：チョンブリー
- PQA(開発/製造/技術・サービス)

#### Anritsu Industrial Systems (Shanghai) Co., Ltd. (China)

- 所在地：上海
- PQA(製造/技術・サービス)

#### Anritsu Electronics (Shanghai) Co., Ltd.

- 所在地：上海
- 通信計測(製造/技術・サービス)



### 日本

#### アンリツ株式会社

#### アンリツインフィビス株式会社

#### アンリツデバイス株式会社

#### アンリツカスタマーサポート株式会社

- 所在地：神奈川県 厚木市
- 通信計測/PQA/環境計測/センシング&デバイス(開発/製造/技術・サービス)

#### ATテックマック株式会社

- 所在地：神奈川県 平塚市
- 通信計測/PQA/環境計測/センシング&デバイス(製造)



東北アンリツ株式会社



アンリツ株式会社

#### 東北アンリツ株式会社

- 所在地：福島県 郡山市
- 通信計測/環境計測(製造)

#### 株式会社高砂製作所

- 所在地：神奈川県 川崎市 / 山形県 鶴岡市
- 環境計測(開発/製造/技術・サービス)

#### AK Radio Design株式会社

- 所在地：神奈川県 厚木市
- 通信測定サービス(技術・サービス)



代表取締役 社長  
グループCEO

濱田 宏一

## CEOメッセージ

# 事業およびESGへの取り組みを両輪に、 “共に持続可能な未来へ”

ながるものと捉えており、2021年に策定した中期経営計画GLP2023でサステナビリティ目標を掲げています。

ESG活動において最も注力しているのが気候変動対策です。Anritsuは、再生可能エネルギー（再エネ）自家発電・自家消費に取り組む「Anritsu Climate Change Action PGRE 30」により、消費電力の削減に直接つながる活動を行っています。再エネ発電を増やす努力を企業の「自分ごと」として取り組み、引き続き推進します。PGRE 30は主要拠点で太陽光自家発電を行うものであり、2021年度の自家発電比率はGLP2023の目標である13%以上となる16.8%となりました。しかし、地球温暖化が深刻化していることを踏まえてさらに取り組みを強化し、2050年までにカーボンニュートラルを実現すべく、SBT認定のCO<sub>2</sub>排出量削減目標を強化する計画を策定します。また、Anritsuグループの年間電力消費量（約30GWh）はRE100の参加要件を満たす規模ではありませんが、カーボンニュートラル実現を推進している他の枠組みに参加いたします。

社会領域では人財の多様性、サプライチェーンにおける人権尊重などをサステナビリティ目標に掲げています。ダイバーシティ&インクルージョン(D&I)の推進では、女性幹部職比率15%以上(グローバル)を達成したいと考えています。女性幹部職拡充の方策として、技術

Anritsuグループは、サステナビリティ経営を通じて、未来の社会づくりへの貢献を目指しています。「事業を通じて解決する社会課題」「社会の要請に応える課題(ESG)」への取り組みを両輪に、ステークホルダーの皆さまとともに、安全・安心で豊かなグローバル社会の発展に貢献いたします。

### 社会にとって必要な会社、役立つ会社を目指す

新型コロナウイルスのパンデミックやウクライナ危機など、社会のサステナビリティが脅かされる事案が相次いでいます。SDGsの達成年は2030年ですが、その根底が脅かされる状況に社会が変化してしまっています。

こうした中でもAnritsuが貢献できる社会課題の解決に向け、2022年4月から私自身がサステナビリティ・環境総括役員を務めて推進する体制としました。経営理念で掲げる「誠と和と意欲」の下、サステナビリティ方針を実践し、社会にとって必要な会社、より良い未来を創るために役立つ会社として、安全・安心で豊かなグローバル社会の実現に貢献してまいります。

### 社会からの要請に誠実に取り組む

ESG課題への対応は、環境や社会への悪影響を最小限に抑え、全ての人が生き生きと働き、暮らせる社会に

系の女性を核とした新卒採用や中途採用の強化、柔軟に働ける制度の充実などに取り組んでいます。加えて、男性社員の意識改革や育児休職をためらうことなく取得できる風土づくりも重要であり、この点にも力を入れています。多様性はイノベーションを生み出し、会社の成長の原動力となるものです。将来的には、性別、国籍を問わずさまざまな価値観や考え、経験をもった人材が意思決定の中核にいる会社にしていきたいと考えています。社員が安全で健康で生き生きと働き、個性と能力を発揮できる健康経営を推進してまいります。

サステナビリティ目標の達成は、役員賞与算定の指標としています。これは、サステナビリティへの取り組みを人事部門や環境部門など関連の強い部門だけに限定するのではなく、全ての役員がおおのの所管する活動において責任をもって取り組んでいかなければならないという私の強い意志の表れです。

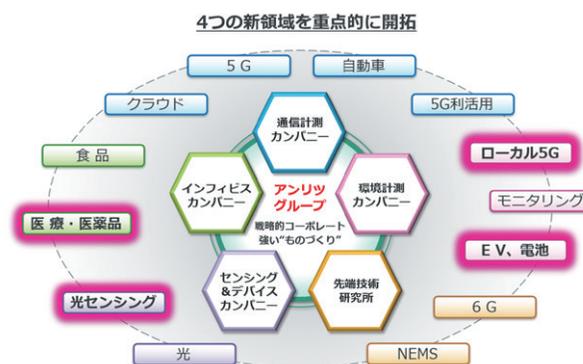
## 事業を通じて社会課題解決に貢献する領域を広げる

事業における取り組みの核となるものが、アンリツのコンピテンシーである「はかる」技術です。情報通信システムの進化は、常に社会革新を生み出し、豊かさ、発展をもたらしてきました。コロナ禍においても、人と人をつなぐ役割を担ったのは情報通信ネットワークでした。アンリツも緊急事態宣言中は最大8割の社員が在宅勤務を行った通り、テレワークは接触機会の減少に有効であり、感染拡大を防止するという面でも役立ちました。

アンリツの通信計測ソリューションは、スマートフォンや通信端末、データセンターなどの開発・製造・保守で接続品質を保証する役割を担い、情報通信システムの

進化・発展を支えています。また、「はかる」技術を食品生産分野にも展開しています。食品業界のお客さまに異物混入防止や原材料の過不足のない生産とその管理を自動化できるソリューションを提供し、食料資源の有効活用、安全・安心な食品の流通、食品ロスの低減に貢献しています。

情報通信システムの進化を支える、暮らしの安全と安心を守る。この取り組みは今後もアンリツのコアとなるものです。これに加え、新たな貢献領域を設定しました。それが、「ローカル5G」「EV、電池」「光センシング」「医療・医薬品」です。



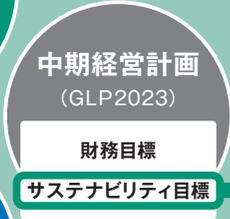
なかでも「EV、電池」はアンリツにとって新たな事業領域であり、事業を通じて環境分野の社会課題解決に直接的に貢献できる初めての事業となります。この事業領域に参入するため、2022年1月に(株)高砂製作所のM&Aを行い、グループに加わってもらいました。同社は、より高性能でエネルギー効率の良いEVの研究開発をサポートする試験装置を提供しています。この事業を大きく成長させて、カーボンニュートラル社会の実現に大きな貢献をしたいと考えています。

## 社員全員で取り組むため、事業やESG対応にSDGsのゴールを組み込む

アンリツはグループ全体でSDGsのゴール9への貢献を掲げ、「持続可能な社会の建設に関わる産業の創造とイノベーションを促進していく」ことを目指しています。その上で、GLP2023において各事業部門、コーポレート部門、グループ会社がおおのの視点で目指す未来社会を描き、その実現に向けてSDGsへの取り組みを組み込んだ計画を立てて取り組んでいます。それぞれの取り組みについては事業部門、コーポレート部門、グループ会社がメンバーであるサステナビリティ推進会議で進捗を確認し、実務的にPDCAを回しています。進捗に関しては経営戦略会議や取締役会で監督の下、サステナビリティ方針に沿って企業価値向上につながるようにしていきます。

日本政府が打ち出した「デジタル田園都市国家構想」は、行政手続きや教育、医療のオンライン化、自動車の自動運転などにより、地方にいても大都市と同じような働き方や生活を実現するものであり、いくつものSDGsにつながっています。この取り組みで欠かせないものが5G、クラウドコンピューティングから生み出されるデジタルトランスフォーメーション(DX)となっています。アンリツは、光/デジタル通信、モバイル通信の黎明期から、端末や装置が規格通りに動作し、つながるかを試験できる測定器や通信システムに組み込まれるデバイスを世界各国の通信事業者、メーカーなどに提供しています。5Gのさらなる技術革新やその先の6Gでも測定技術は必須であり、より良い未来社会づくりに大きな貢献ができる分野ですので、アンリツの事業活動にどうか、ご期待ください。

# サステナビリティ経営が目指す未来



### 事業を通じて解決する社会課題

#### アンリツグループの事業全体

安全・安心なインフラを整備し、持続可能な社会の建設につながる産業の創造とイノベーションの促進に貢献する



#### 通信計測事業

- 強靭なネットワークインフラ整備



#### PQA事業※1

- 食品ロスの低減
- 品質保証



#### 環境計測事業

- 強靭なインフラ構築
- 自然災害の防災/減災





#### センシング&デバイス事業

- 強靭なインフラ構築
- 健康的な生活の確保




### 社会の要請に応える課題 (ESG)

#### Environment

持続可能な消費と生産の企業活動で持続可能な社会づくりに貢献する

- 再エネ自家発電比率向上
- CO<sub>2</sub>排出量(エネルギー消費量)/水使用量の削減
- 高品質で環境に配慮した製品の開発/製造
- 環境負荷を低減するSCM※2





#### Social

多様な人材とともに、個人が成長し働きがいのある職場づくりに貢献する

- 人権と多様性の尊重
- 人材育成
- 労働安全衛生
- 人権に配慮したSCM





#### Governance

透明・公正かつ迅速・果敢な意思決定とリスクマネジメントで誠実な企業活動を行う

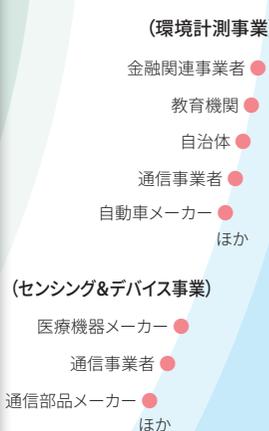
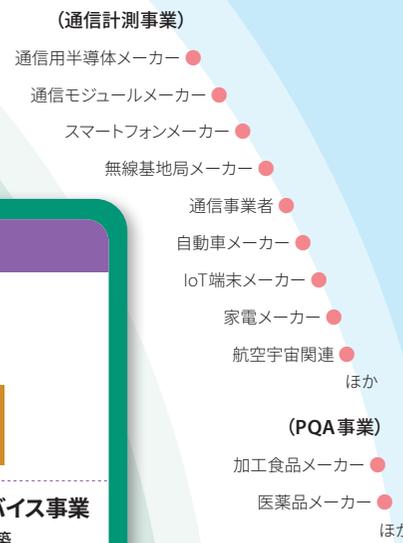
- コーポレートガバナンス
- コンプライアンスの定着
- リスクマネジメントの推進



### コミュニケーションの推進による共有価値の創造

全てのステークホルダーとともに協働して共有価値の創造に貢献する

- ステークホルダーへの情報提供とコミュニケーション

### サステナビリティ経営が目指す未来

## 安全・安心で豊かなグローバル社会の発展

アンリツは、お客さまとともに事業を通じて社会課題の解決に貢献します。そして、アンリツが重要と考える社会の要請に応える課題(ESG)に引き合い、ステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションを重視し、グローバル社会のサステナビリティの発展に向けて取り組みます。

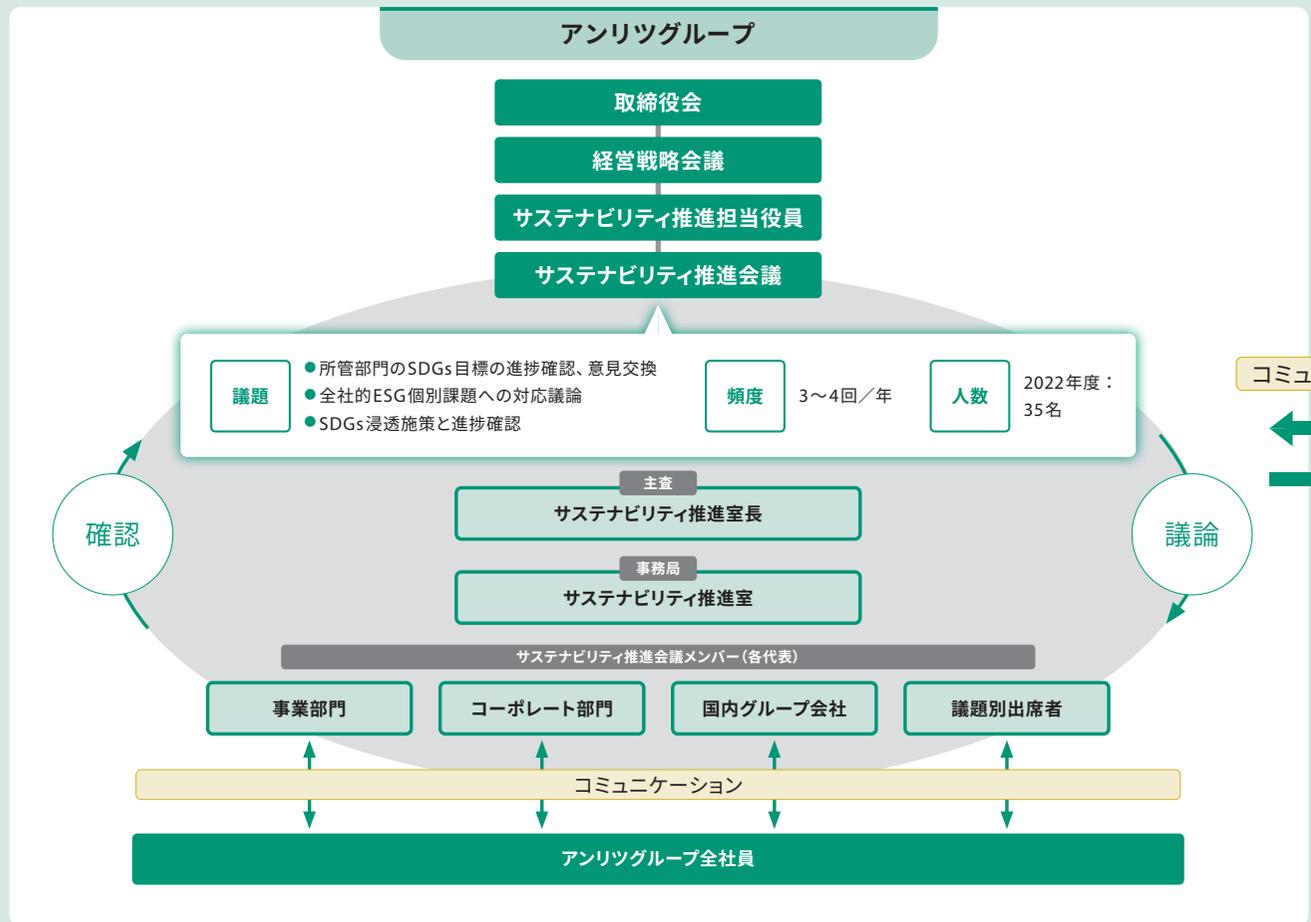


WEB 中期経営計画 GLP2023

※1 PQA事業：プロダクツ・クオリティ・アシュアランス事業  
 ※2 SCM：サプライチェーンマネジメント

# サステナビリティ推進体制

アンリツは、経営理念、経営ビジョン、経営方針およびサステナビリティ方針に基づき、サステナビリティ活動を推進しています。主要な部門の代表者からなるサステナビリティ推進会議では、重点項目を明確にして情報を共有し、各代表者から各部門に展開・浸透させています。また執行役員・理事からなる経営戦略会議、取締役会においてもサステナビリティ課題を議論しています。なお、2021年度は、取締役会でのサステナビリティ課題に関する議論は8件でした。



## サステナビリティ目標とその進捗

アンリツは、気候変動対策や人権の尊重、多様性の推進など、社会の持続可能性を阻害するさまざまな課題の解決に向けて、積極的に取り組んでいます。GLP2023では、ESG領域における3年間のサステナビリティ目標を策定し、取り組みを進めています。

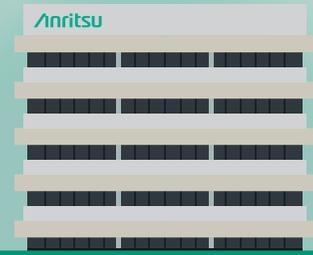


	KPI：GLP2023の目標		2020年度実績	2021年度実績	進捗
Environment 環境	温室効果ガス [Scope1+2] (2015年度比)	23%削減	16.9%削減	17.7%削減	○
	温室効果ガス [Scope3] (2018年度比)	13%削減	10.1%削減	14.7%削減	◎
	自家発電比率 [PGRE 30] (2018年度電力消費量を基準)	13%以上	3.3% 2021年3月末時点	16.8% 2022年3月末時点	◎
Social 社会	女性の活躍推進 [女性幹部職比率(グローバル)]	15%以上	10.8% 2021年3月末時点	10.9% 2022年3月末時点	○
	高齢者活躍推進	70歳までの雇用 及び 新処遇制度確立	65歳までの 雇用延長制度あり	70歳までの雇用 及び 新処遇制度制定	◎
	障がい者雇用促進 [職域開発による法定雇用率]	2.3%達成	2.05% 2021年3月末時点	2.54% <sup>※</sup> 2022年3月末時点 <small>※特例子会社、(株)ハビスマとの合算</small>	◎
	サプライチェーン・デューデリジェンス <sup>※</sup> の強化	3年累積10社以上	0社	6社実施	◎
	CSR調達に係るサプライヤへの情報発信と教育	情報発信 2回以上/年 教育 1回以上/年	情報発信 2回 教育 1回	情報発信 3回 教育 1回	◎
Governance ガバナンス	取締役の多様性推進 [社外取締役比率]	50%以上	44% (9人中4人)	50% (10人中5人)	◎
	海外子会社の内部統制構築	全海外子会社が 統制自己評価(CSA)の基準を満たす	2023年度の評価に向けて、CSAの判断基準や各社に求められる水準を定義中(2022年度完成予定)		○

※ デューデリジェンス：相手企業の経営環境や法的な問題点・リスクなどの調査・分析を行うこと。

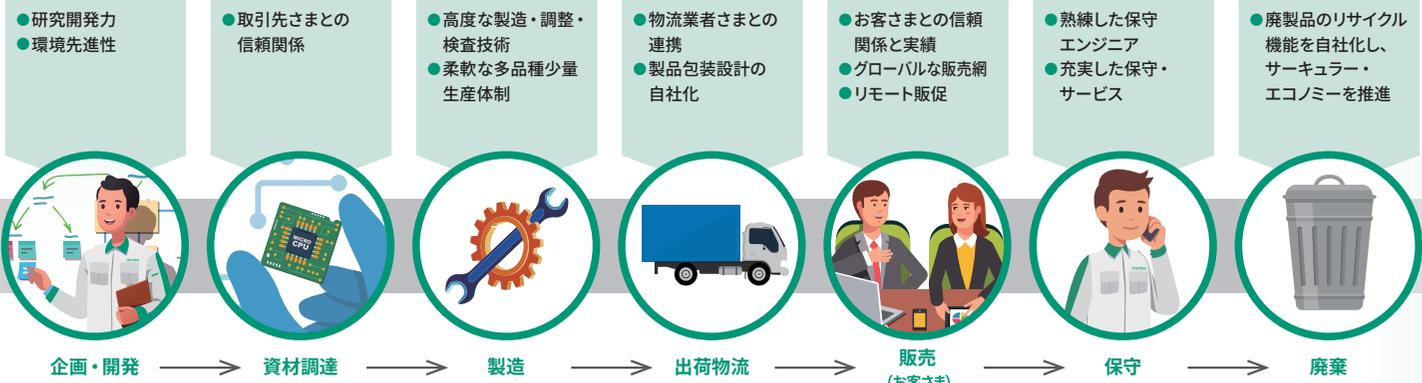
# バリューチェーンと事業を支える強み

安全・安心で豊かな社会づくりを支えるアンリツは、製品の企画・開発から廃棄に至るプロセスで、環境配慮や人権尊重などの社会の要請に応え、ステークホルダーと協働しながら価値を高めるバリューチェーンを構築しています。



## アンリツの事業

アンリツの強み



- 研究開発力
- 環境先進性
- 取引先さまとの信頼関係
- 高度な製造・調整・検査技術
- 柔軟な多品種少量生産体制
- 物流業者さまとの連携
- 製品包装設計の自社化
- お客さまとの信頼関係と実績
- グローバルな販売網
- リモート販促
- 熟練した保守エンジニア
- 充実した保守・サービス
- 廃製品のリサイクル機能を自社化し、サーキュラー・エコノミーを推進

社会の要請

- 先端技術への追従
- 環境配慮型製品
- 品質と製品安全
- 環境・人権に配慮した資材調達
- サプライチェーン人権リスクの低減
- 環境・人権に配慮した生産
- 品質と製品安全
- CO<sub>2</sub>排出量の削減
- 廃棄物の削減
- 品質と製品安全
- 環境負荷低減
- 的確な情報提供
- アンリツ製品の安定稼働
- 資源循環(資源の有効活用)

アンリツの取り組み

- 関連団体への参画
- 協業の推進
- 省エネ、省資源、有害物質非含有設計
- 製品アセスメント
- CSR調達、グリーン調達
- 人権デューデリジェンスの実施
- 現代奴隷法対応
- 責任ある鉱物調達
- 生産革新
- 太陽光パネルの設置
- 安全な製造現場の維持
- 包装の簡素化、リユース化、素材変更
- モーダルシフト(トラック→鉄道)
- お客さま満足の向上
- 製品アセスメント
- 製品の省電力化
- Webサイトによる製品紹介、操作ガイド類の充実
- グローバルなサポート体制
- リモートサポート、メンテナンス
- 使用済み測定器を整備し再販
- 徹底した分別で高リサイクル率の維持

- 地球環境保護
- 人権と多様性の尊重
- 人財育成
- 労働安全衛生
- コーポレートガバナンス
- コンプライアンス
- リスクマネジメント
- ステークホルダーとのコミュニケーションの推進

### 通信計測事業

「5G/IoT社会の実現を支える通信計測ソリューション」の提供を通して

- 通信利活用による社会課題の解決
- 通信でつながる豊かな社会の実現

### PQA事業

「食品や医薬品の安全・安心を支える品質保証ソリューション」の提供を通して

- 製造段階の食品ロスの低減
- 安全で安心して健康に暮らせる社会の実現

### 環境計測事業

「強靱な社会インフラを支え、産業デジタル化と脱炭素社会へ貢献する環境計測ソリューション」の提供を通して

- 社会インフラ/産業インフラの高度化促進
- カーボンニュートラル社会実現への貢献

### センシング&デバイス事業

「安全・安心で快適な社会づくりを支える産業/医療用光センシング、通信用デバイス」の提供を通して

- 医用機器の進化と人々の健康的な生活
- デジタル変革社会の実現

# 研究開発と知的財産

「事業を通じて解決する社会課題」の取り組みでは、多様な人財による最先端技術を用いた研究開発と知的財産が原動力となっています。先進技術の獲得に努め、保有し活用することによって、“オリジナル&ハイレベル”な商品・ソリューションを開発し、グローバルに提供することで、お客さまとともに持続可能な社会の構築に貢献します。



戦略的な知的財産マネジメント

オリジナル&ハイレベルの源泉

## アンリツグループの研究開発体制

主力の通信計測事業は、日本を中心に米州、EMEA<sup>※</sup>、アジア他に開発拠点をもち、各地域が保有する技術の有効活用でシナジーを生み出し、先進の製品開発に挑んでいます。



- 通信計測
- 通信計測
- 通信計測
- 通信計測
- PQA
- その他

※ 欧州・中近東・アフリカ

経営戦略

事業戦略

## 多様な人財

国籍、性別、年齢、専門分野などさまざまな考え方や価値観を持った多様な人財が連携し、オリジナル&ハイレベルな商品を創出しています。基盤技術や将来技術の研究開発を担う先端技術研究所では、さまざまな経験を持つ多くの中途採用人財も活躍しています。

## 先端技術研究所



## 標準規格団体への参画

11 団体への参画  
(2022年3月現在、通信計測事業)

WEB 参画団体

## お客さま、他企業とのパートナーシップ

## 研究・開発

売上高に対する研究開発費比率

10.8%  
(2021年度)

WEB 研究開発費推移

獲得

保有

活用

## アンリツグループの技術(抜粋)

モバイル コミュニケーション 2G、3G、4G & 5G	オートモーティブ IoTコネクティビティ	クラウド コンピューティング 超高速シリアル インターフェース
<ul style="list-style-type: none"> <li>● シグナリング技術</li> <li>● 信号解析技術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 幅広い無線技術</li> <li>● コミュニケーション解析技術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 超高速デジタル信号技術</li> <li>● 光解析技術</li> </ul>
共通基盤技術	X線異物検査	質量検査
<ul style="list-style-type: none"> <li>● FPGA設計技術</li> <li>● ソフトウェア設計技術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 画像処理技術</li> <li>● Deep Learning応用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高速・高精度ダイナミック計量技術</li> <li>● 計量安定化技術</li> </ul>
社会インフラ監視、防災	EV・電池制御	半導体技術
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 映像情報システム技術</li> <li>● 分散型遠隔監視技術</li> <li>● 高精度通信帯域制御技術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● エミュレーション電源技術</li> <li>● 双方向電力制御技術</li> <li>● 電力回生技術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 発光デバイス設計・製造技術</li> <li>● 超高速電子デバイス設計・製造技術</li> </ul>



## 知的財産の活用

知的財産は、企業の持続的成長に重要な経営資源の一つであり、事業戦略と密接に関係しています。知的財産部門は、研究開発成果である知的財産の権利化と、それを補完する社外技術の獲得による知的財産ポートフォリオの充実を推進し、事業部門とともに事業戦略の実現を目指しています。



## 新製品・技術の公開

新製品情報、技術情報などはWebサイトを活用し広く展開しています。また、アンリツグループの技術論文集アンリツテクニカルや学会誌への寄稿論文などでも公開しています。

WEB アンリツテクニカル

# 通信計測事業

先進的な計測技術で最適な通信テストソリューションをいち早くお届けすることを使命に、安全・安心な通信インフラの構築に関わるお客さまをサポートし、持続可能な社会の建設につながる産業の創造とイノベーションの促進に貢献します。



## 5Gインフラの開発・製造・建設・保守をアンリツの測定器で評価・検査

### 社会課題・顧客ニーズ

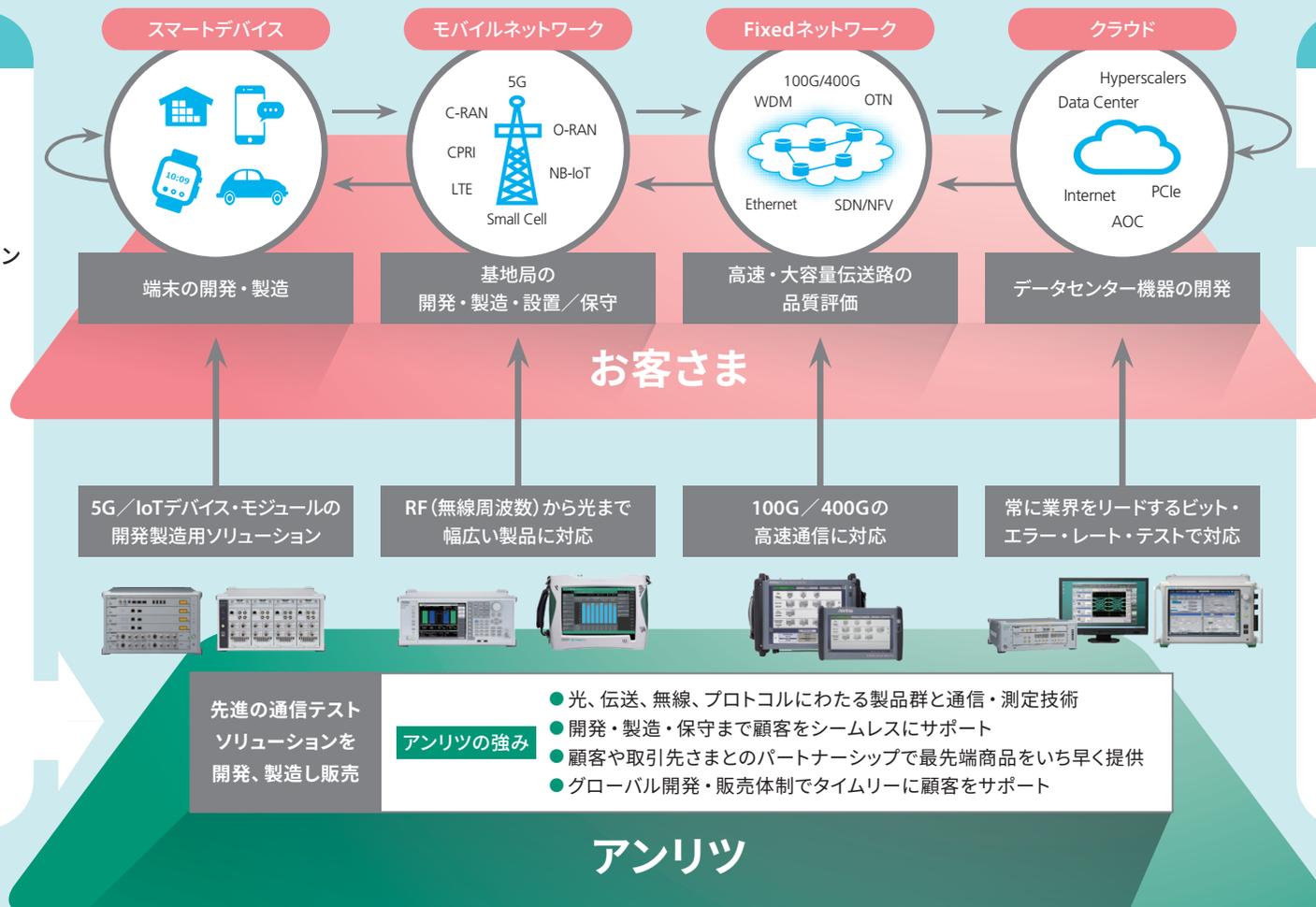
デジタル革新で  
新たな社会の変革を期待

#### 社会課題

- デジタルトランスフォーメーション
- 通信インフラの増強
- テレワーク環境整備
- 交通事故の減少
- 産業の効率化
- 地方格差の解消

#### 顧客ニーズ、関心事

- 5G最新技術に迅速対応
- 6Gの開発
- グローバルサポート
- 優れた投資対効果
- 環境負荷低減など



### 未来社会

5Gの特長を生かした社会  
課題解決ソリューションで、  
豊かな未来を創造

# 5G

- 高速・大容量
- 多数同時接続
- 超低遅延



## 通信計測事業のSDGs

未来の社会では、DX(デジタルトランスフォーメーション)をはじめとする技術革新に支えられた産業と生活が期待されています。これらの技術革新は高度な通信ネットワークに支えられています。アンリツの通信計測事業は、その開発のサポートや品質を担保する信頼性の高い通信テストソリューションの提供を通じて、ゴール9「産業と技術革新の基盤をつくろう」とゴール11「住み続けられるまちづくりを」にお客さまとともに貢献しています。



会社見学の学生さんが  
アンリツのエンジニアに  
聞いてみた



**技術革新によって未来のまちはどのようなとお考えですか？**

未来のまちでは、DXによってさまざまな社会課題が解決され、より快適で豊かな生活が送れるようになってきていると思います。例えば、5Gの超低遅延特性を生かした自動運転や遠隔医療ですね。

**未来のまちづくりでアンリツはどんな貢献をしていますか？**

まちづくりの基盤となるのが、確実につながる高度な通信ネットワークです。その通信品質は、信頼性の高い通信テストソリューションによって検査されることで確保されています。アンリツは、スマホや基地局の開発・製造・保守に必要な通信品質を保証するテストソリューションを提供しています。これによって通信事業者さまは確かなつながる強靱な通信ネットワークを構築し、交通の安全性改善も高めていきます。これらは、SDGsのターゲット9.1と11.2の達成に貢献しています。

**テストソリューションの役割をもう少し具体的に教えてください。**

端末や装置などは世界の通信ルール通りにつくられているか確認することが求められています。テストソリューションとなる測定器は目に見えない電波を可視化したり、基地局の代わりをして最新の通信ルール通りに動作するかを確認することができます。測定器で検証された正しい端末、装置が、右の図のような安全・安心で豊かな未来のまちを創り出していくのです。

**なるほど。だから、アンリツはSDGsのゴール9と11に貢献しているのですね。**

### 5Gがつくる「未来のまち」

- スマホ／通信端末**  
VR／エンタメ高度化  
→ 快適で豊かな生活を演出
- 河川／山林**  
現場の高精細映像監視  
→ 避難喚起／対策の迅速化
- 建設現場**  
建機の遠隔操作／自律制御  
→ 労働者の安全／人材不足の補完
- 自動車**  
自動運転の実現  
→ 交通事故削減／渋滞解消
- データセンター／クラウド**  
AI／ビッグデータ活用  
→ 産業のイノベーション促進
- 医療**  
遠隔医療の進化  
→ 医療格差の是正
- 農業／酪農**  
農場温湿度管理／家畜健康管理  
→ 後継人材／経験不足の補完
- 26c  
60c

# PQA事業

PQA事業は、食品や医薬品産業に向けて生産ラインの品質検査工程を自動化するソリューションを提供しています。ここでは事業の8割以上を占める食品産業の社会課題にフォーカスし、アンリツの取り組み事例をご紹介します。



## アンリツの品質保証ソリューションで品質検査工程の自動化を実現

### 社会課題・顧客ニーズ

安全で安心できる  
食品の安定供給

#### 社会課題

- 健康でおいしい食品の安定供給
- 安心して口にできる品質の保証
- 食品ロス削減
- 生き生きと働ける職場環境

#### 顧客のニーズ、関心事

- 品質検査／品質保証の厳格化
- 衛生管理の徹底
- 品質データの管理と活用
- 歩留まりの改善(生産性向上)
- 自動化による人手不足の解消
- トレーサビリティの確保
- 環境配慮型食品パッケージの採用

生産ラインの構成例



お客さま



高速高精度、  
高信頼の検査機を  
開発、製造し販売

#### アンリツの強み

- 高速かつ高精度なインライン品質検査技術
- 多様な生産ラインに検査機を導入する適応力
- 国内の充実した保守体制と熟練した保守エンジニア
- 国内の食品検査市場での実績とトップクラスの市場地位

アンリツ

### 未来社会

食品の品質保証の  
高度化を通じて

- 安全で安心して暮らせる社会の実現
- 食品ロスの少ない持続可能な社会



## PQA事業のSDGs

世界では毎年13億トンもの食品ロスが発生しており、この削減が持続可能な社会の実現に向けた課題となっています。食品ロスの多くは食べ残しや賞味期限切れなどですが、製造品質を高めることで防げるロスも少なくありません。PQA事業は品質保証ソリューションの提供を通じてターゲット12.3「2030年までに小売・消費レベルにおける世界全体の一人当たりの食料の廃棄を半減させ、収穫後損失などの生産・サプライチェーンにおける食品ロスを減少させる。」に貢献しています。



会社見学の学生さんが  
アンリツのエンジニアに  
聞いてみた



**食品ロスとはどういうものなのでしょうか。**

まだ食べられるのに捨てられてしまう食品です。工場で作られ家庭で消費されるまでに、大量の食品が廃棄物となっており、社会問題化しています。SDGsでは「食品ロスの半減」を掲げており、国際社会が協力して目標達成に取り組んでいます。

**なぜ社会課題となっているのでしょうか。**

世界には満足に食べられない人が多くいるのに、食料資源が有効に活用されていないのは大きな問題です。限りある食料を、長期間保存でき、安心して食べられる形でお届けすることが求められています。

**アンリツの食品ロス削減ソリューションについて教えてください。**

加工食品が出荷され市場に流通した後、不良品であることが判明すると大量の食品を回収して廃棄しなくてはなりません。アンリツは、食品メーカーへの品質検査機器の提供を通じて不良品の流出を防止することで、食品ロスの削減に貢献しています。

**具体的には、どのようなことができるのでしょうか。**

品質不良はさまざまな工程で発生します。アンリツのソリューションは製造工程の全域に及んでいます。より小さい不良品を見つけられるようにすることはもちろん、「不良エリアだけを排除する」「パッケージ不良を見つける」などができます。さらに、品質データをモニターすることで、不良品生産リスクの低減や不良品が発生したロットの特定などを可能とするソリューションも提供しているんです。

**アンリツのソリューションは食品ロスの削減に役立っているのですね。**

## 食品ロス削減への貢献事例

日本国内の例	食品製造業	卸・小売産業	外食産業	消費者
	約5万事業所	約100万事業所	約82万事業所	約1.2億人
食品廃棄物発生量	1,339万t	134万t	151万t	748万t
うち食品ロス	121万t	73万t	81万t	247万t
主な原因	品質不良に伴う廃棄	消費／賞味期限切れ	売れ残り・食べ残し	可食部分の過剰な除去 食べ残し

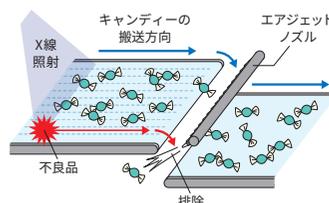
※ 食品廃棄物にはまだ食べられる食べ物と、食品加工の段階で出る肉や魚の骨などの食べられない部分の両方を含みます。食品廃棄物発生量と食品ロス数値は2020年度の推計値：農林水産省



## アンリツの品質保証ソリューション

### ピンポイント選別による歩留まり向上

検査機のコンベア終端に、流れ方向と垂直に多数のエアジェットノズルを配置し、品質不良が発生した対象物をピンポイントで排除します。周囲の良品を巻き込まないため、食品ロスの発生を抑え、歩留まりが向上します。



### パッケージ不良品の出荷防止

パッケージ不良は、密封性や防湿性などの低下を招き、内容物の変質(変質)、腐敗につながります。不良品を排除することで、食品ロスの原因となる出荷後の品質劣化を防ぐことができます。



### 検査画像の分析による迅速な対応

生産された食品の全ての検査画像データを保存できます。生産後に異物混入の懸念が生じた場合やお客さまから異物混入の連絡が入った場合などに、直ちに詳細を分析できます。



影響値やNG種別で検索することも可能  
NG画像の自動抽出、拡大表示  
日付やラインを指定して簡単にNG画像を検索できます

# 環境計測事業

強靱な社会インフラ構築に向けて、遠隔監視技術、映像情報技術、通信帯域制御技術を活かした信頼性の高い情報通信ソリューションを提供します。また、ローカル5Gの導入・運用支援や、計測を活用したプロセス改善を通して、新たなデジタル社会の変革をサポートします。さらに、EV(電気自動車)や電池の評価ソリューション提供を通して、安全・安心で快適なカーボンニュートラル社会の実現に貢献します。



## 安全・安心で環境にやさしい社会の実現に貢献する環境計測ソリューションを提供

### 社会課題・顧客ニーズ

デジタル革新で  
新たな社会の変革を期待

#### 社会課題

- 在宅勤務、オンライン授業増加による通信量の急増
- 豪雨、地震などの自然災害の増加
- 脱炭素社会への移行

#### 顧客ニーズ、関心事

- 企業内の通信障害(遅い、つながらない)を簡易に解決したい
- 監視現場の状況を画像でリアルタイムに的確に把握したい
- エネルギー効率の良いEVを開発したい

#### 社会インフラのレジリエンス向上

道路、河川、通信、水道、電力、金融



インフラ監視業務高度化・老化化対策  
防災・減災、スマートシティ社会実装

#### 産業のデジタル化推進

工場、建設



ローカル5Gの導入・運用  
生産設備の省人化・生産性向上

#### カーボンニュートラルの促進

自動車・二輪車、建機、農機、船舶



EV、電池普及  
再生可能エネルギー利用拡大

お客さま

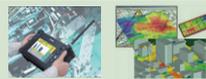
遠隔監視システム 映像情報システム



帯域制御装置 防災管理



ローカル5G導入支援サービス



産業用計測機器(形・熱・音・振動など)



EVパワートレインの  
エミュレーション



バッテリー充放電試験



双方向直流電源試験



高信頼な情報通信機器/  
ソリューション、  
EV、電池測定ソリューションを  
開発、製造し販売

#### アンリツの強み

- 高度な独自技術を融合したソリューションの提供
- お客さまの課題を的確に把握し解決する提案力

アンリツ

### 未来社会

いつでも、どこでも、ストレスなく  
つながる快適な通信環境が実現



自然災害に対する防災、減災対策  
が進化し、誰もが安心して暮らせ  
る社会が実現



高信頼なEVの普及による地球に優  
しいグリーンな交通システムが実現



## 環境計測事業のSDGs

アンリツの環境計測事業は、生活やビジネスの基盤となるさまざまな「社会インフラのレジリエンス向上」、「産業のデジタル化による生産性改善」、そして持続可能な社会づくりに欠かせない「カーボンニュートラル」に貢献する取り組みやソリューションの提供を通じて、ゴール9「産業と技術革新の基盤をつくろう」、ゴール11「住み続けられるまちづくりを」、ゴール13「気候変動に具体的な対策を」、ゴール7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」の達成をお客さまとともに目指しています。



会社見学の学生さんが  
アンリツのエンジニアに  
聞いてみた



「住み続けられるまち」づくりに必要な社会インフラ監視について教えてください。

私たちの生活は、道路、河川、通信、水道、電力など、さまざまな社会インフラの上で成り立っていますので、これらの安定稼働や維持の取り組みが必要です。また、気候変動により自然災害が頻発化、激甚化しており、防災・減災に向けた対策も重要です。これらの取り組みや対策のために社会インフラは常に監視されています。アンリツはその監視に必要な製品やソリューションを提供しています。

直接的な課題解決ではなく、お客さまとともにSDGsへの貢献を目指すんですね。

はい。インフラを管理をされるお客さまにIoT技術の応用や防災・減災に貢献する監視ソリューションを提供してゴール11と13に貢献しています。

IoT技術の応用や防災・減災に向けた監視ソリューションとはどのようなものですか？

設備の老朽化や自然災害に対し、迅速かつ適切に対応するためには、状況を効率よく正しく把握し、優先度を見極める必要があります。アンリツは、これに必要な情報をIoT技術を応用して収集する独自の分散型遠方監視装置、増大する映像やデータなどを効率よく把握する情報閲覧装置、それらを活用して集中監視を構築したソリューションや重要な通信の安定性を確保できる帯域制御装置を提供しています。

分散型……ですか？これは具体的にはどのようなものでしょうか？

分散型遠方監視装置は社会インフラで使用される各種設備の状況を容易に把握したいという要求に応え、さまざまな機器と接続できます。またネットワークや中央処理装置に負荷を集中させないエッジコンピューティング技術を活用しています。これにより、たとえば、トンネルでは警報表示板や信号機、非常通報装置などの状況をリアルタイムに監視し、安全走行を支えています。

アンリツのソリューションがさまざまな分野でSDGsに貢献しているんですね。

## 「住み続けられるまち」を支える社会インフラ監視



**通信ネットワーク安定化**  
●通信トラフィックの負荷分散  
●重要通信の帯域確保

# センシング& デバイス事業

さまざまな産業製品の核となる光デバイス、超高速電子デバイスを世界中に供給し、お客さまとともに人々の暮らしの利便性を高め、安全・安心で快適な社会の実現に貢献します。

## 暮らしやすい社会づくりのコアとなるデバイスを提供



SOA  
モジュール    チップキャリアタイプ

データセンター    光トランシーバー

データセンター間などの長距離光通信網にアンリツのSOAを組み込むことで、光信号を劣化させることなく、安定した通信環境を構築できる。モジュールに加えチップキャリアタイプの提供でトランシーバーの小型化に対応



SLD光源

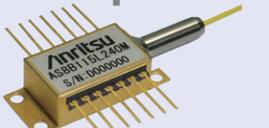
眼科OCT (網膜断面観測装置)

アンリツのSLD光源を眼科OCTに組み込むことで、高分解能な網膜検査が可能となり、早期に加齢黄斑変性症や緑内障の発見が可能となる

お客さま



半導体光増幅器 (SOA)  
長距離通信で減衰した光信号を増幅



医療用光センシング向けSLD光源  
眼科OCTで高い測定分解能を実現

高性能、高信頼の  
デバイスを開発、  
製造し販売

**アンリツの強み**

- 化合物半導体をコアとする先端的なデバイス技術
- 結晶成長などのウエハ工程からパッケージングまで自社一貫プロセスで柔軟な対応力と高品質を実現

アンリツ

### 社会課題・顧客ニーズ

デジタル革新で  
新たな社会の変革を期待

#### 社会課題

- データ通信量の増加に耐えうる  
強靱な通信インフラ構築
- 高齢化に伴う  
眼の疾患患者の増加

#### 顧客ニーズ、関心事

- 通信インフラを構成する光ファイバに流れる光信号品質を確保したい
- 高分解能な網膜状態検査装置を開発したい

### 未来社会

高速・大容量通信を利活用  
したデジタル革新により、  
社会課題の解決を実現



医療の進化により、あらゆる  
年齢の人々が健康に生  
活できる社会を実現



## センシング&デバイス事業のSDGs

超高速光デジタル通信ネットワークは、5Gなどの無線アクセスネットワークとともに、デジタル革新を加速させ、環境、医療、農業、自動車、防災など多様な産業分野で、社会課題の解決の基盤となっています。センシング&デバイス事業は、さまざまな産業製品のキーとなる光デバイス、超高速電子デバイスを世界中のお客さまに供給することを通じて、ゴール9「産業と技術革新の基盤をつくろう」とゴール11「住み続けられるまちづくりを」にお客さまとともに貢献しています。



会社見学の学生さんが  
アンリツのエンジニアに  
聞いてみた



どのようところで、アンリツのデバイスが活用され、SDGsに貢献しているのですか？ 代表的なものを教えてください。

世界を結ぶ長距離光通信網では、伝送中に弱くなる光信号を強く（増幅）することが必要です。アンリツは通信網の増幅器に不可欠な光源（励起レーザー）やデータセンターの光トランシーバーに組み込む半導体光増幅器（SOA）を提供しています。安定した通信環境はゴール9やゴール11に不可欠なものですので、お客様とともにこれらを支えることでSDGsに貢献しています。また、CO2排出削減にもつながることからゴール13にも貢献できるんですよ。



具体的に教えてください。

データトラフィックの増大によりデータセンターの増設が進んでいますが、光信号を増幅するSOAの活用で、遠くに大規模なデータセンターをつくることができ、その増設数を減らす、すなわち電力消費（＝CO2排出）の削減といった効果につながっています。SOAをモジュールではなくチップキャリアタイプで提供する、また高温でも動作するものを開発することで、お客さまの製品の小型化や冷却するための電力消費の削減に貢献できるような対応も進めています。また、励起レーザーについては、これまでかなりの数量を供給していますので、世界中で稼働している数は相当です。一つひとつの消費電力はそれほど大きくはありませんが、全体とみると莫大なものになりますので、省電力化への取り組みが大切です。



省電力について数値目標はあるのですか？

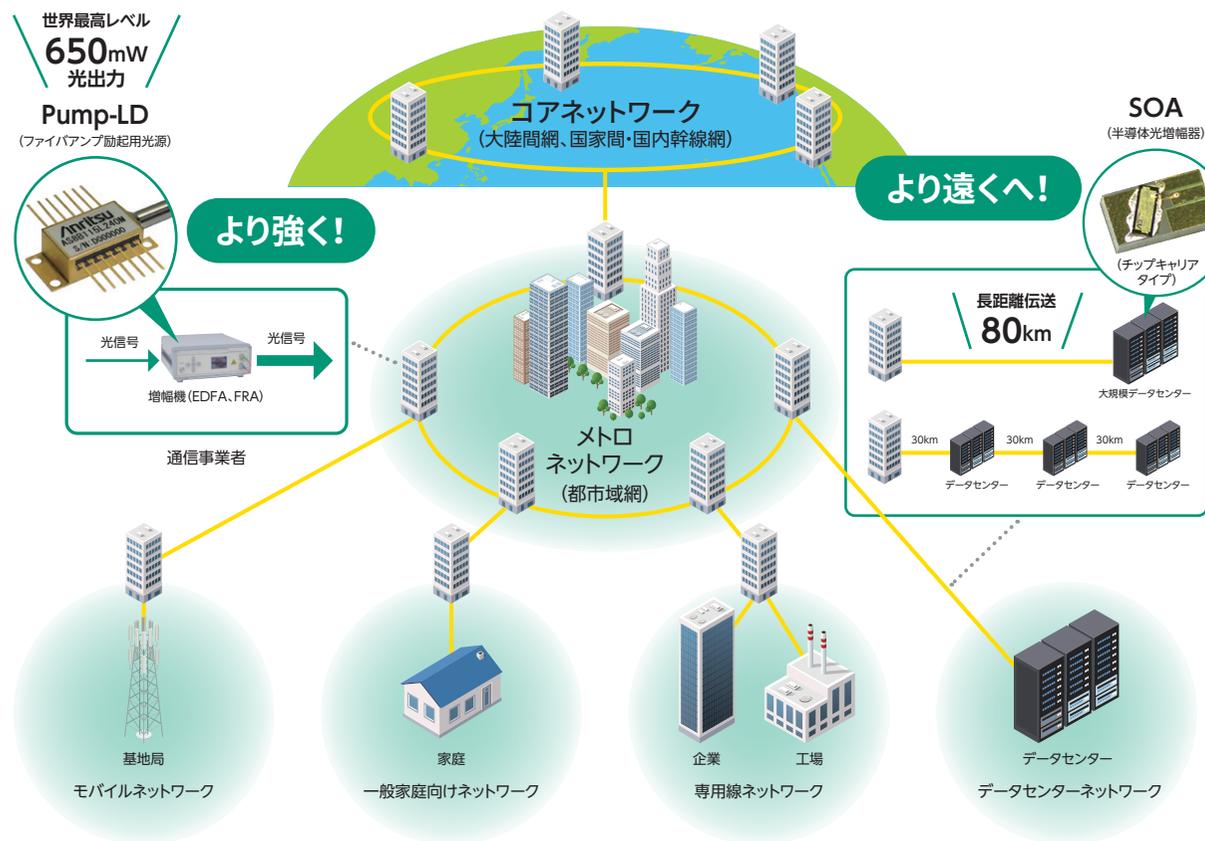
2023年度までに電力消費量を2020年度比で5%削減するという数値目標を定めて省電力化への取り組みを進めています。



なるほど。アンリツは光通信網の安定稼働と省電力化に寄与する取り組みを通じて、社会課題解決に貢献しているんですね。



## 通信ネットワークを支えるデバイス



# ステークホルダーとのコミュニケーションとパートナーシップ

アンリツはステークホルダーとのコミュニケーションを重視し、適切かつタイムリーな情報開示に努めています。またパートナーシップの構築を通じて、さまざまな社会課題の解決に向けた活動を行っています。



ステークホルダー	取り組みの状況	コミュニケーション機会の一例、関連サイト
<b>株主・投資家さま</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>● トップ層による海外投資家様向けのIR活動 証券会社主催のカンファレンス参加：11件 海外IRリモートロードショー：2件 合計121社(米州：32社、欧州：28社、アジア他：61社)の投資家と面談</li> <li>● 国内投資家228件、海外投資家181件の面談を実施</li> <li>● 株主・投資家の声を取締役会、経営戦略会議へフィードバックし、さらに幹部職向け社内イントラで周知</li> <li>● 統合レポートのさらなるブラッシュアップ</li> </ul>	<p>対象期間：2021年4月～2022年3月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 決算説明会</li> <li>▶ 株主総会</li> <li>▶ IR個別面談</li> <li>▶ 証券会社主催のカンファレンスへの参加</li> <li>▶ 統合レポートやWebサイトによる情報発信</li> <li>▶ 株主・投資家の声のトップ層へのフィードバック</li> </ul> <p><a href="#">WEB 投資家のみなさまへ</a></p>
<b>お客さま</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 安全性・品質・先進性の高い製品・サービスの創出、適切な製品・サービス情報の提供、問い合わせ窓口の充実など</li> <li>● パートナーシップで生み出したソリューション・サービスの提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ お客さま相談窓口、Webサイトでの情報提供</li> </ul>
<b>取引先さま</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 事業方針や資材調達方針の説明、表彰などを行う取引先さま懇親会、情報交換会の実施</li> <li>● CSR調達・グリーン調達の推進、人権デューデリジェンスの実施</li> <li>● 取引先さま製品展示会、セミナー、技術交流会(オンライン開催含む)などを通じたビジネス機会創出</li> <li>● 取引先さまから改善・要望などをご提案いただく「パートナーQU(Quality Up)活動」の推進</li> <li>● 社員との面談に関するご意見などをいただく「面談時アンケート」の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 取引先さま懇親会</li> <li>▶ 情報交換会</li> <li>▶ 取引先さまへのCSR調達アンケート、往査</li> <li>▶ 取引先さま製品展示会</li> <li>▶ パートナーQU活動</li> <li>▶ コラボレーションルームの設置</li> <li>▶ 面談時アンケート</li> </ul>
<b>社員</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 社員エンゲージメントの確認と改善</li> <li>● 企業倫理に関する実態把握と改善</li> <li>● 職場環境とコミュニケーションの改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 従業員満足度調査(年1回)</li> <li>▶ 倫理アンケート(年1回)</li> <li>▶ ヘルプライン(通報・相談窓口)の設置</li> <li>▶ 上司と部下の役割共有面談の実施(年2回)</li> </ul>
<b>地域社会</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「青少年教育との連携」、「地域社会への貢献」、「環境保護活動(生物多様性保全)」を3本柱とした地域密着型の社会貢献活動を展開</li> </ul>	<p><a href="#">WEB 社会貢献活動</a></p>
<b>NGO・NPOなど</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 認定NPO法人ジャパン・プラットフォーム(JPF)との災害発生時の情報共有、寄付</li> <li>● 障がい者アーティストの経済的自立や社会参画を支援している(一社)障がい者自立推進機構のパラリンアートに協賛</li> <li>● 気候変動対策を推進するイニシアチブとの連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ウクライナ人道支援寄付</li> <li>▶ パラリンアート協賛を継続。作品5点を社内展示</li> <li>▶ TCFD<sup>®</sup>への賛同、電機・電子温暖化対策連絡会との情報共有</li> </ul> <p>※ Task Force on Climate-related Financial Disclosures：気候関連財務情報開示タスクフォース</p>
<b>その他</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ESGに関する評価機関、報道機関とのコミュニケーション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 各種ESG調査・アンケートへの回答および評価内容に関する意見交換</li> <li>▶ CDPへの回答、外部機関からの取引先監査受審(RBA、EcoVadis、SMETA)</li> </ul> <p><a href="#">WEB ESGインデックスへの組み入れ状況、外部評価</a></p>

## ESGハイライト

アンリツはステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションと協働により、グローバル社会のサステナビリティの実現に向けて取り組んでいます。

### ローカル5Gの普及に貢献するパートナーシップ

#### AK Radio Design 設立

アンリツは、株式会社構造計画研究所との共同出資により、AK Radio Design株式会社を設立しました。ローカル5Gの導入・運用に関連したさまざまな課題を解決するために、シミュレーションと実測が融合したサービスを提供しています。AK Radio Designは、総務省のローカル5G実証事業に参加している複数のプロジェクトから受注するなど、パートナーシップの成果を上げています。

#### VOICE

アンリツカスタマーサポート株式会社 春口 亮・助川 凡夫

実測は、アンリツカスタマーサポート株式会社が請け負っています。アンリツ製の測定器を用いて、ローカル5Gの電波の状況を見える化し、実測現場でお客様と共有し、後日実測結果と考察を提供しています。植生や建造物、地形などの影響でシミュレーション結果と実測結果が異なることも多く、よりの確なエリア設計につながっています。



### 共生社会の実現に向けて

#### ハピスマ設立

親しみやすく、柔らかく、温かみのある雰囲気、そしてさまざまな人がいて会社がり立っている、そんな会社で障がいのある方にも働いていただけるようにしたいとの想いを込めて、株式会社ハピスマを2021年9月にアンリツ株式会社100%出資のアンリツグループ会社として設立しました。現在の主な業務は石鹸製造です。

同社は2022年1月に障害者雇用促進法に定める特例子会社の認定を取得しました。



#### VOICE

株式会社ハピスマ 代表取締役社長 齋藤 憲一

社名のハピスマは「Happy & Smile」に由来し、笑顔がモチーフのロゴは親しみやすく、柔らかく、温かみのある雰囲気、さまざまな人がいて成り立つ会社であることを表現しています。モットーである「決めつけない」「あせらない」「あきらめない」を大切にし、社員が笑顔で幸せに働ける職場づくりを進め、社会のサステナビリティに貢献できる企業を目指してまいります。



### 共に地域の感染対策を

#### アンリツマスクと職域接種

アンリツは、新型コロナウイルス感染症対策の一環として、不織布マスクの製造設備を導入し、社内で製造しています。社員、お客さまなどへの配付に加え、厚木市や厚木市をホームタウンとするサッカークラブ（はやぶさイレブン）など、これまでに20万枚以上を寄付しています。はやぶさイレブンには選手・スタッフ用に加え、地域の皆さまに使用していただく分も含めて寄付し、感染防止対策に使用されています。また、ワクチンの職域接種では、社員の家族も対象に含め、市内の病院の協力を得て実施しました。



#### VOICE

アンリツ株式会社 水橋 豊 アンリツ健康保険組合 山木 和義

新型コロナウイルス感染症対策では、「できることはすべて対応し、社内では絶対に広げない、お客さまに迷惑をかけない」という想いが対策チームで共有されました。自社製マスクの製造はこの象徴だと考えています。ワクチンの職域接種も3回行いました。チーム一丸となって会場での感染予防対策を行いました。社員の家族も対象にしたことから、地域での感染予防に貢献できたのではないかと考えています。





株式会社ハピスマでは、主に石鹸などの製造業務を行っており、障がいのある方も個性や能力を発揮できる就労環境を整備しています。社名のハピスマは「Happy」と「Smile」を掛け合わせたものであり、ロゴマークでは、親しみやすく、柔らかく、温かみのある雰囲気、さまざまな人から成り立っている会社を表現しています。今後も、障がいの有無に関わらず社員が価値観を共有し、共に働きながら社会のサステナビリティに貢献できる企業を目指していきます。



ハピスマ社員が製造した石鹸と  
手書きのメッセージカード

Anritsu

アンリツ株式会社

〒243-8555 神奈川県厚木市恩名 5-1-1  
TEL: 046-223-1111 <https://www.anritsu.com>